

特102

496

SUNDAY SCHOOL TEACHERS' HELP
GRADE I (A) FIRST YEAR LESSON 107-109.

聖公會日曜學校教案

セシル監督提案校
青葉女學院編

教案の目的

成長して教會又は世に立つに際し、信者たる行爲をなし得るやう、兒童を教育養成す。

第一年上半年

(自六歳至七歳)

本課程目的 兒童をして、唯一の眞の神は愛すべき天の父なる事を悟らしめ、又他人に對しては、家庭に於ても學校に於ても、キリスト様の聖旨に適ふやう扶け導く爲。

聖句 約拿書第一二三章
ヨナ舟より海に投入られし理由

大正 2. 6. 4
内交
272
873



始



目的——背いた者も、再び立歸るやうに罰し給ふ神の大なる愛を教へる爲。
金言——「爾曹すべての事二親に従ふべし」(哥羅西三〇廿)。

教師研究要點

- 一、拿一〇一——ヨナに對する神の御命令。
- 二、一〇三——ヨナの不從順。
- 三、一〇四—一五——ヨナ罰せらる。
- 四、一〇一六——奇蹟水夫等の信仰を起す。
- 五、二〇一—九——ヨナの悔改と祈。
- 六、二〇十——ヨナ救はる。
- 七、三〇一—二——神の第二の御命令。
- 八、三〇三—四——ヨナの説教。
- 九、三〇五—九——罪人等の悔改。
- 十、三〇十——神彼等の罪を赦し給ふ。

45115
651

十一、前教課との關係——ノアは神に従順でありましたから、神は之に報ゆるに洪水より彼を救ひ誓約をなし給ひました。

一、準備——皆さんが母さんに何か命令されました時、不從順に他所へ行つて遊んだ事がありますか。左様して遊んでも面白かつたですか。家に歸つて母さんに遇つた時如何な氣持がしましたか。濟なかつた、悪かつたと思ひませんでしたか。母さんの命令に何時も從順ふならば如何でせう。皆さんは悦んで居る事が出来ます。今日は命令られた通りに爲なかつた人のお話をしませう。其人はヨナと云ふ人でありました。此の前にお話したのは何といふ人でしたらうか。皆さん覺えて居ますか。ノアは神様の御命令をよく從順しましたから、神様は其の御褒美として、ノアを大切にしてお下さいまして、ノアも悦んで居りました。

二、話——(イ)端緒 ヨナといふ人は先生で又預言者で、神様の御言葉を聞いて、悪い事をする人があれば、其を教へる人でありました。或日の事神様はヨナに「ある遠い處にある大きい町の人々は、みんな悪事をして居るので、神様が大層心配して在るか

ら、悪い事を止して、皆善事をするやうに申せ」と御命令なさいました。ヨナの國には、真中に一の河が流れて居ました（黑板又は大きい紙に海岸線とヨルダン河を書いて下さい）。悪い大きい町といふのは、此から遠く離れて居ました（ヨルダン河から右の方に點線を引いて、矢で方向を示して下さい）。此の御命令を聞いてヨナは如何しましたらうか。此の方へ行きましたらうか。（其の點線を指示して）

（口）話の續　ヨナは聞かずに、全く違つた此方へ行きました（海の方へ點線を書いて下さい）。段々海の方へ来て、其處から全く違つた方へ舟に乗つて行つてしまひました（海の中に點線で矢の方向をつけて、遠くに行つた事を表して下さい）。ところが舟に乗つてあまり遠く行かない途中に、大きな暴風雨が吹いて、山のやうな波が立ち、其が舟に突當つて碎け、水夫も皆今に舟が沈むかもしれないと思つて怖つて、いろいろの神様に御助を願ひました。けれどもヨナは暴風雨の事などは一寸も知らず、グウグウ寝て居ました。すると船長が「お前様は何故こんな暴風雨に、獨り寝て居ますか。早く起きて神様にお助を願ひなさい」と申しました。暴風雨は段々強くなつて来る許

りでしたから、水夫の一人は「こんなに海が荒れるのも、此舟の中で誰か悪い事をした罰であるから、悪い事をした人は誰であるか闇を撃かう」と云つて、皆闇を撃きました。其の闇は誰に當つたでせうか。左様其闇は丁度ヨナに當りました。水夫共が集つて「闇が當りましたが貴下は何か悪い事をしたのですか」と問ねました。ヨナは自分か神様の御命令を不順従ないために、こんなに澤山の人に難儀をかけて悪かつたと思ひましたから、「私はユダヤ人で、天も、地も、海も、風もお創造りなされた唯一の神様を信じて居るものであります、神様が行けど仰せられた所へ行かないで逃げて来た、その罰として神様はこんな烈い暴風雨を起されたのであります」と云ひました。これを聞いた水夫は皆吃驚して、「暴風雨は段々強くなるばかりだが、如何したらよからう」と大聲で云ひました。するとヨナは「こんな暴風雨も皆私が悪い爲ですから、私を海に投入して下さい」と云ひました。水夫共はヨナを舟から海中に投げました。只一度悪い事をした許りで、海に投げられたとは本當に怖い罰ですね。其後間もなく暴風雨が静まつて、水夫共は舟の中で跪いて、天の父なる神様にお祈をし

お禮をし、よく神様を信じ命令に従ふと約束しました。

(ハ)話の頂點 ヨナが海に落ちると、神様がお遣しなされた一疋の大きい魚が居つてヨナを呑んでしまつて、段々陸の方へ游いで行きました。呑まれたヨナは何も怪我を爲すに、魚の腹の中に居つて「神様の御命令に従はず誠に悪い事を爲しました。何卒赦して下さい」と祈りました。神様が此を御聴なまつて大層御悦びなされ、魚が陸に着くとヨナを陸に何の怪我もなく吐出せました(海でヨナを呑んだ魚が、陸に進んで来た道筋を點線で表し、又海岸にヨナが立つて居る處を何か記號をつけて表して下さい)。

次に神様は又、悪い町に行つて人々が悪い事を止めるやうに教へなさいとヨナに御命令なさいました。之を聞いたヨナは直ぐ遠い〜其の町へ行きました(初めに書いた線の傍に右の方へ、點線をもつて海岸からの進路を書いて下さい)。

(ニ)話の結末 ヨナは其町に着いて、人々に神様は誠に善い方で、人々を可愛がつて下さる御方であることを教へました。町の人々は之を聞いて悪かつたと云つて、皆善

事をなし、神様を信じ祈をするやうになり、ヨナも大層喜びました。

三 連想——皆さんは母さんがもう澤山といふのも聴かずに、又菓子を食べたことがありますか。お腹が痛くなりませんでしたか。母さんが小刀を玩つてはいけませんと仰るのを聴かずに、小刀を玩つて指を切りませんでしたか。彼處は危いから行つて遊んではいけないと、兄さんに教へられても聴かずに行つて遊んで、怪我なんぞしませんでしたか。お腹を痛めたり、指を切つたり、怪我などした時悪い事をしたと思ひませんでしたが。皆さんが父さん母さんや兄さんの云ふ事をよく従順なればならんといふ事を、神様が皆さんに教へる爲、悪いことをすると色々怪我をさせるのであります。ヨナも神に罰せられてから、悪い事や我儘なことを止めて、神様の御命令に従つたのであります。

四 總括——私共が幼少い時には、神様の仰ることはよく解りません。けれども母さん父さんの仰ることはよく理解ります。それで皆さんも父さんや母さんの仰ることをよくさしますと、神様もお悦びになるのであります。(こゝで金言を教へて下さい)

五

適用——復習問題要點

ヨナ神様の御命令に背きて逃げし事。

ヨナは神様より逃隠るゝ事が出来なかつた事。

神様が罰として暴風雨を起された事。

水夫等は神様を信じて禮拜せし事。

神様はヨナを無事に上陸せしむる爲魚を遣れし事。

ヨナ神様に祈りて悔改めし事。

魚はヨナを無事陸に上げ、ヨナは直に神の命せし町に行きて説教せし事。

町の人々悔改めて神に立戻りし事。

ヨナ神様の言に従ひ他人に祝福を濟せし事。

家に歸つてから、母さんに此話をして上げるやう小供に勤めて下さる。

第八課

渴して死せんとせしイシマエルの話

聖句——創世記第十六章及第廿一章。

目的——兒童に

(一) 天の父は貧しき人、便るところ無き人をも愛し守り給ふ事。

(二) 渴いた花に雨を下さつたと同じく、渴ける人に水を與へ給ふ事。

を深く感せしむる爲。

金言——「爾等の天の父は之を養ひ給へり」(馬太傳第六章廿六節)

教師研究要點

一、創十二〇一、二、十三〇十六、十五〇一—六、——アブラハムになし給へる神の

契約。

二、創十六〇一——アブラハムの妻に子なき事、神の契約は如何に成就せられしや。

三、創十六〇二—四——アブラハムの妻サラ婢を妻としてアブラハムに與ふる事。

四、創十六〇五—六——サラ婢を怒り野に逐出せし事。

五、創十六〇七—十六——途中神の使婢に顯れて、歸るやう告げ、婢歸りてアブラ

ハムの男子を生み、皆契約による嗣子と思ひし事。

六、創十七、八、九、廿章——神のアブラハムに對する契約は割禮によつて結ばれた事。アブラハム信仰の試を受けて約束の救主の先祖たるに應しからしめらるゝ事。

七、創廿一〇一—七——サラ男子を生みイサクと名く。

八、創廿一〇八—十一——サラは婢ハガルと其子を妬み之を逐出さんとせし事。アブラハムイシマエルを愛し逐出す事を拒む事。

九、創廿一〇十二、三——神アブラハムに對してイシマエルを逐出すの聖旨なるを告げ、イシマエルを一大國の首としイサクを契約の裔とし給ふ事を告げ給ひし事。

十、創廿一〇十四—十六——ハガル及イシマエル荒野に行き、イシマエル渴して死に垂んとせし事。

十一、創廿一〇十七—十九——神彼等の悲の聲を聞き給ふて、慰めん爲天の使を遣はし給ひし事、婢目を開き見れば傍に井水ありし事。

十二、創廿一〇廿、廿一、廿五〇十二—十八——イシマエル成長して榮え、結婚し神の御言葉によつて一大王國の元首となりし事。

十三、前教課との關係——ヨナは神に反き我儘を働き罰を受け、アブラハムは萬事神に従ひ種々の困難ありしも、契約を遂行し給ふ事を示されし事。

一、準備——(上述の要點をよく感じ居るや否やを注意して、ヨナのお話をさせて下さい)。前のは大人のお話でありましたが、今日のは母さんと外に只一人のお友達しかなかった可憐相さ小供のお話であります。母さんの外の只一人のお友達とは誰れでせうか、知つて居ますか。神様は此の一人の小供の、また皆さんのお友達であります。此の神様と母さんの御二人が守つて下さるから、外の友達はなくても澤山であります。

皆さんは何とも致方がない程、大層咽喉が渴いた事がありますか。何か飲むものがありませんでしたか。極咽喉が渴いても、何も飲むものが無い時は、どんなに辛いか考へて御覽なさい。皆さんが後で水を飲みたくなつた時、少し耐えてどんなに辛いか試して御

二、話——(イ)話の端緒 昔々にアブラハムと云ふ人が居ました。或日神様に向つて「アブラハムを大きい國の王様として下さつて、又其國から世界中の人々の爲によい事をして下さる人が生れる」と云ふ事を仰せられました。此を聞いたアブラハムは大層悦んで妻にも話しまして共に悦んで居ました。

(ロ)話の續 アブラハムと妻は、永い間子供が生れるのを待つて居ました。けれどもなか／＼生れないので、大層寂しく思つて居ました。皆さんの父さんや母さんも、皆さんの兄さん姉さんが居なかつたならば寂しいでせうか。寂しい時にはどうすると思ひますか(答養子)。左様アブラハムも其の通り、子供が居ないので寂しいから、他所からイシマエルといふ男の子を貰ひました。ところがイシマエルが十四になつた時、アブラハムに男の子が生れました。皆はどんなに悦んだ事でせう。アブラハムの妻は最早餘程年寄になりましたので、子供が生れるとは誰も思ひませんでした。けれども之は神様の御約束でありましたから、間違はありませんでした。アブラハムは此

子をイサクと名づけ、大層立派なお祝をしました。アブラハムはイシマエルを可愛がつて居りましたが、妻のサラは本當に自分の子供が生れてからは、イシマエルが憎くなつて、アブラハムに云つて、イシマエルと其母を逐出さうとしました。けれどもイシマエルを可愛がつて居つたアブラハムには、そんな事は出来ないで、困つて居ました。其時神様がアブラハムに向つて「安心しなさい。イサクを嗣子としなさい。イシマエルは私が世話をして上げるから」と仰せられました。それでアブラハムは厭々ながらも、イシマエルと母さんを、お米と水をやつて家から出してしまひました。二人とも一人のお友達の外には、人も居ない、家もない野原を歩いて居ました。其一人のお友達といふのは誰でせうか。(答神様)左様神様でありました。神様は何處にも在られるのであります。永い間歩いて居る中に、持つて来たお米も食べ、水もすつかり飲んでしまひました。イシマエルは咽喉が渴いたが飲む水もなく、段々弱つて死ぬやうになりました。母さんも致方なく大聲で泣きました。すると神様が其聲を御聞なされて、天使を遣され「神様が泣聲をお聞なされたが、何か困つて居るならば神様が助けて下さる」

と仰せられました。

(一) 話の頂點 神様が母さんの目を開いて下さいまして、見ると近所に井戸がありましたから、瓶を持って一杯水を汲んで来てイシマエルに飲ませました。

(二) 話の結末 それでイシマエルも助かり、段々大きくなり、大層弓が上手で妻をもらつて神様の御言葉通り、大きい國の王様となりました。

三、連想——皆さんは咽喉が渇きました時、何か飲むものを誰が下さいますか。母さんですか。イシマエルに水を飲ませて下さつたのも母さんでした。お母さんは本當に一番よい方ですね。けれども母さんに水をくださるのは誰でせうか。何處から水を汲みませうか。イシマエルの母さんは井戸から汲みました。どうして水が土から出るのです。大層咽喉の渇いた「櫻花のお話」を覚えて居ますか。どうして咽喉が渇いたのを醫しましたらうか。其水を誰が與へて下さつたでせうか。左様水やお米や明くして下さつたのは、天の父なる神様であります。

四、總括——私共に大切なものを下さるのは、天の父様である事を忘れないやうにする爲、金言を記憶して下さい。

五、適用——甘い冷い水を下さつたのは、天の父様であるといふ事がわかりました時、花はどうしましたか記憶して居ますか。花と同じやうに皆さんも、神様の賜物に禮を申上げて下さいますか。(水が不足ならば降雨のための祈を教へて下さる。)

復習問答要點

- 一、神アブラハムに子を賜ふお約束をなされた事。
- 二、アブラハム養子をせし事。
- 三、實子生れし事。
- 四、サラの妬どハガル及イシマエルの逐出されし事。
- 五、荒野にて水缺乏し、ハガル悲を神に訴へし事。
- 六、神井戸を示し給ひし事。

皆さんは家へ歸つてから母さんに此のお話をして下さいますか。

第百九課

子イサクの救はれし話

聖句——創世記廿二章。

目的——神は吾等を觀ることを忘れ給ひしに非ずやと思はるゝ時にも、猶總ての困難に於て助け給ふことを兒童に感せしむる爲。

金言——「神は爾曹を顧みたまへばなり」(彼得前書第五章七節)

教師研究要點

- 一、創廿二〇一、二——アブラハムに對する神の御命令。
- 二、王下三〇廿七、十七〇卅一——種々なる神に子供を献ぐるは、猶太周圍の異邦諸國の常習なりし事。
- 三、出十三〇十二—十五、廿二〇廿九——神長子の献物を命せられしも、贖の價を拂ふて再び與へらるゝ事。
- 四、創廿二〇十二——神子供の献物を禁じ給ふ。
- 五、來十一〇十七—十九——命せられた事が實行せられざりし事。神は只アブラハムの意志の從順を求められし事。

六、創廿二〇三—五——アブラハムの從順。

七、同廿二〇六、約十九〇十七——イサクは父の望み通り燔祭の柴薪を負ふ事。

八、創廿二〇八——約一〇廿九比較。

九、創廿二〇九——創八〇廿比較。

十、創廿二〇十三——神燔祭の爲小羊を備へ給ふ。

十一、創廿二〇十六—十八——神アブラハムと新契約を成し給ふ事。

十二、前教課との關係——神の聖旨によつて養子イシマエルを逐出した後、イサク一人となり、此子により神の契約が成就せらるゝのでありましたが、命により神に献げんとしましたのを、神は助けて多くの子孫の約束をなし給ひし事。

一、準備——皆さんは父さんや母さんから、御土産を頂いた事がありますか。何故下さつたでせう。皆さんを可愛がつて下さるからでせう。皆さん御土産を頂いた時は嬉かつたですか。皆さんは前にお話しましたノアの話をお憶えて居ますか。ノアが方舟か

ら出ました時、お禮として如何なことをしましたか。何故石壇を拵え、其上で獸を焼いて神様に献げましたでせうか。其は焼くと烟が天に上つて、神様の所へ行くと思つたからでせう。神様はノアが何か献げたいといふ考を御覽なされて、大層悦ばれました事を覚えて居ませう。今日はアブラハムの献物に就てお話しませう。誰か前週のお話が出来ますか。イシマエルが家を出ましてから、アブラハムに幾人子供がありましたか。アブラハムが此の残つた一人の子を可愛がつて居ましたらうか。

二、話 — (イ) 話の端緒 — アブラハムはイサクを大層可愛がつて居つたと思ひます。皆さん其次に神様は子供が段々澤山になつて大きい國になるといふ事をアブラハムにお約束なされた事を記憶えて居ますか。それでアブラハムはイサクを極大切に育たと思ひます、イサクが段々大きくなつて、天の父なる神様を愛するやうに父さんから教へられました。

(ロ) 話の續 — 或日の事大變な事が出ました。「神様が獨子イサクを山の上に連れて行つて、焼いてわれに献げなさい」とアブラハムに御命令なさいました。之を聞いて

アブラハムはどう思つたでせう。けれども神様がアブラハムを常に可愛がつて守つて下さるから、御命令に従なければならんと思ひました。それで或日朝早く起き、僕を二人呼んで馬の支度をさせ、薪を之につけ、イサクを連れて皆一所に旅に出ました。三日も旅を續けて或山に着きまして、二人の僕と馬を待たせて置いて、薪をイサクに持たせ二人で山へ登りました。イサクはアブラハムに「父さん薪はありますが、献げる羊は何處にありますか」と尋ねました。アブラハムはこう尋ねられて悲しみましたが、只「神様が献げる羊を備へて下さるだらう」と云ひました。其の内段々山を登つて頂上につきました。頂上で大きい石を集め積み重ねて壇を拵え、其上にイサクの携て来た薪を積み、愈準備が出来ました。するとアブラハムはイサクを繩で縛つて、薪の積んである壇の上に置いて、刀をもつてイサクを殺さうとしました。丁度其時に、

(ハ) 話の頂點 天から「アブラハム」と呼ぶ聲がしました。アブラハムは周圍を見廻しながら「ハイ、何で御座いますか」と云ひますと、又天から「イサクを殺してはいけません。自分の唯一人の子を殺してまでも献げ様とするので、神様を愛し、何でも神様の御

命令に従ふ心が了解つた」と云ふ聲が聞えました。アブラハムは神様にお禮を申しながら、イサクを解いて壇から下しました。イサクを献げる積りであつたから、何も他に神様に献げるもの持つて来ませんでした。丁度後を見ると、藪の中に小羊が一疋居つた。之は神様の下さつたものでありましたから、アブラハムは可愛がつて居るイサクの代りに此羊を献げました。

其時又天から聲があつて「汝は總ての物にまさつて神を愛したから、子供が天の星の如く澤山になり、其子供によつて世の中の人々は皆幸になるやうにする」と云はれました。

(二)話の結末 其れからアブラハムとイサクは山から下つて、待つて居つた僕と一所に家に歸りました。

三、連想——皆さんは難儀をしたり驚いたりした事がありますか。イサクのやうな事は、皆さんには無いと思ひますが如何ですか。皆さんを殺して神様に献げるといふ人も居らぬでせう。イサクが壇の上に載せられました時、神様を見る事が出来たか、

見る事は出来ませんでした。神様は丁度傍に在たまふたのであります。そしてアブラハムが刀を上げて殺さうとした時、其をお止めなされたのであります。今でも神様は皆さんの傍に在つて、皆さんの云ふ事、する事を見て居らるのであります。

四、總括——此を忘れないやうに金言を覚えさせう。其の通り神様は私共を守つて居て下さるのであります。

五、適用——私共も何か怖い事や難儀に遇つた時には、神様が私共を守つて下さると思つて……どうしませうか。只守つて下さいと、御願をすればよいのであります。私共は今神様に祈るために生物を献げる事は出来ませんが、何處に居ても神様にお話する事が出来ます。今皆さんと一所に神様とお話をしませう。子供に此の話をさせて下さい。

- 一、アブラハムはイサクを可愛がつて居つた事。
- 二、神様の御命令には何でもよく従つた事。
- 三、神様はアブラハムが心を献げるかを試された事。

四、神様がイサクを殺すことを止め、代りに羊を與へられた事。

復習

第二百二、三、四、五、六、七、八、九課

金言

雅各書一〇一七、詩篇七四〇一六、約翰第一書四〇七、彼得後書五〇七、

詩篇一四五〇九、哥羅西書三〇廿、馬太傳六〇廿六。

目的

父なる神は日光雨を賜る許りでなく、花や木の生育を助くる許りでなく

イシマエルとイサクを助けられたと同様に、何時でも何處でも、困難苦

痛ある児童を守り助け給ふことを児童の心に結びつくる爲。

今迄の金言を悉く注意して復習をさせて下さい。児童は聖句の意味を充分に了解しな

いかもしれません、此等の言葉が児童のものとなる迄練習させる事が大切でありま

す。自分のものとなつて居れば、決して忘れる事はなく、時のたつに従つて次第に其

意味を了解し、又話に含まれてある教訓を忘れぬやうにする助となるのであります。

練習が終ひましたらば、先生が第一の金言を判然明瞭に讀み、次に此難句を理解する

やら教へられた話を記憶せるや否やを問ねて下さい。生徒が話を思ひつくやう、話の
端緒を與へ、話を長くなく、其の要點を含めて簡単に大要を摘んで話させて下さい。
其れで充分であります。

例之 雅各書第一章十七節「總のよき賜物は光の父より下るなり」。

話の概要——「大昔天の父様が、日、月、星、木、草、花、動物を創造り、美しい世界とし

て下さいまして、次に人を創造つて此の美しい處に居らせ皆喜んで居ました」。

斯様に各金言を順々と繰返し、金言の意味を説明する話を大體復習させて下さい。

皆さんの母さんは皆さんのお話を喜んで聞かれますか、家に歸つたら皆さんの一番好

なお話を母さんにして下さい。



大正二年五月十九日印刷
大正二年五月廿一日發行

神戸市下山手通り五丁目十五

著者兼 発行者 ヒュール、ゼ、フランス

神戸市中山手通り三ノ五

發行所 日本聖公會出版社

神戸市吾妻通三丁目十七番屋敷

印刷者 菅 間 徳 次 郎

神戸市吾妻通三丁目十七番屋敷

印刷所 福音印刷合資會社神戸支店

聖公會日曜學校教案

セシル 監督提案校閱
青葉女學院 編纂

教案の目的

成長して教會又は世に立つに際し、信者たる行爲をなし得るやう兒童を教
育養成す。

第三年上半 (自九歳)

第二百七課 ヤコブとエサウ

注意——(本教課は一度に話すに長過ぎる故、之を(一)ヤコブ父を欺
く事、(二)養父も又共に偽る事と二つに区分し、二回の日曜
に亘り、悪事には必ず罰の伴ふ事を子供が強く感ずるやう
にして下す)。

目的——野心は悪事をしてまでも之を遂行する傾のある事。原因が善くとも偽り欺くは罪悪なる事。神は誓約を守り給ふも罪悪は之を罰し給ふ事。

一 準備——誰か神様がアブラハムの子孫についてどんな約束なされたか覚えて居ますか。(答) 天の星のやうに子孫が多くなつて、其によつて總ての國々の人が幸を受ける事)。アブラハムの妻は何と云ひますか。誰か出て黑板に此の二人の名を書いて御覽なさい、永い年の間待つて居ましたが、遂にアブラハムとサラの間に一人の子が生れました。其名は何でしたらうか。此子は如何にして妻を迎へましたか、皆さん知つて居ますか。妻の名は何でしたらうか。二人の名を黑板に誰か書いて御覽なさい。これから其のお話の續をしませう。

二 話——イサクと妻のリベカは、初は大層幸に暮して居りましたが、子供が一人もありませんでした。二人は子供を下さるやう神様に祈りましたが、何年も過て(二十年)漸く神様は二人の子を興へて下さいました。今二人の名を教へて上げたいが、皆さんよく覚えられますか。兄さんの方はエサウと云ひました。誰か其名を黑板に書

いて下さい。弟の名はなんだか日本のハコブといふ言葉のやうな名で、ヤコブと云ひました。誰か出てエサウと書いてある傍に、ヤコブと書いて下さい。兄さんの名は。(生徒をして一齊に唱へしむ)弟の名は。全上兩方を一所に云つて下さい。全上よく覚えられるやう、三四度繰返して云ひませう。(全上)家で一番大きい兄さんは幸だといふのは何故でせう。(答)家の長と成るからであります。(家長と成るのは名譽な責任の重い事、殊に猶太の系統からは總ての人に幸を興へる世の救主が生れると期待せられて居りましたから、其家長と成るのは特に名譽であつた事を話して下さい)此の二人の兄弟の内、誰がイサクの家の長と成る道理でせうか。エサウだと思ひます、けれども二人が生れない時に不思議な事が出来ました。何でもよくおわかりになる神様は、二人が生れぬ前に兄が弟の手下にならなければならぬと親に仰せられました。親達が子供に此事をお話して聞かせたかどうかわかりませんが、多分お話ししたと思ひます。ヤコブは兄さんに代つて家の長になりたいと思つて、種々な事をしました。どんな事をしたか、此れからお話しませう。兄弟が大きくなりますと、兄のエサウは大層狩獵が

好きで、甘い物を食べ面白く遊ぶ事が好きでありました。兄のエサウは猶太人でない周囲の國の若い人々とも、よい友達になつて、イサクの家から救主がお生れなさいといふ、神様の御約束等は信じなかつたから、父さんは途方もない大きい事を考へて居ると、思つて居つたかもしれせん。救主の生れる事などは一寸も考へて居なかつたと思ひます。それで或日狩獵に出て疲れて家に歸ると、丁度ヤコブが何か甘い物を料理して、家中甘い臭がしましたからエサウはたまらなくなつて、少しも待つ事が出来なくなり、お錢はいくらでも上げるから、甘い食物をくれと云ひました。ヤコブは此の時であると思つて、それでは食物を上げるから、其代り私の云ふものを何でも出してくれるかどエサウに云ひました。エサウがよいと承知しましたから、それでは兄さんの代りに私を家の長となるやうにして下さいとヤコブが云ひますと、エサウはもう耐えられなくなり、それを食べなければ死んでしまふと云ひました。御飯を一時位も待つて居る事が出来ないとは、本當に大人でなく子供らしいことですね。自分家の長になる事などはどうでもよいと考へなしに、一杯の食物と交換へました。子

供なら致方もありませんが、此時エサウの年は三十二でありました。誠に馬鹿らしい事ではありませんか。三十二歳にもなつたら少しは考へる筈であります。よく其の理由も考へませんでした。一杯の食物と家の長となると交換へる事は、正義の事でせうか、悪い事でせうか。

ヤコブは神の仰せられました通り、この家の長となる事はよい事であると信じて居ましたから、欲しいと思つて居ました。けれども神の御約束を信じて居ましたならば、ヤコブは神様の仰せられた時を待つて居なければならん筈ですが、其を待たずに家督の権利をエサウから取らうとしたのは、正義しい事でしたらうか。一杯の食物で其を買はうとしたのは悪い事で、人を欺した事になるのであります。一度人を欺せば又欺すといふやうに、段々性癖になつて止める事がなく、六ヶ敷なるのであります。エサウを欺いて家督の権利を買ふ約束をしたヤコブは、次には病氣の父さんを欺して、其祝福を受けました。ヤコブが自分の思ふ通り出来る迄二十五年かゝつたのも、兄を欺し父を欺いたのも、ヤコブが神様の與へると御約束なされたことを信じ、待つて居るだけの信仰がなかつたからでありました。

第二の教課にはヤコブが父を欺いたこと。エサウの憤つた事。ヤコブの罰を恐れ家を出奔し、他人に欺かれ、永い間待つて居つた事を話して下さい。ヤコブもこんな事から、人を欺くと其罰として自分が却て人に欺される、悪い事をすれば吃度其罰のあたる事がわかりました。

金言——「人の種くところの者は亦その穫るところの爲なり」(加拉太六〇七)。

三 適用——私共は皆家の長ではないが、それでも喜んで居ます。けれども子供でも自分の生れながら持つて居るものを、エサウのやうに賣ることがあります。試験の時本をみて書いたりすると、試験の點と正直を交換したのであります。父さんの財布から無断で金銭をとると、僅な菓子と正直を交換したのであります。富人は幸福と金を交換へ、同じやうに人はよいものと悪いものを交換へて居るのであります。欺いたヤコブも悪く、考なしのエサウは自分の持つて居るよいものを賣つたから、もつと悪いのであります。

教師用聖句

イサクとヤコブの生涯 希伯來十一〇九。家督權に對するエサウの態度と、ヤコブに對する神の御目的 羅馬九〇七—十四。我等の生得權 羅馬八〇十四—十七。約翰三〇十六、默示七〇—一五。生得權の賣却 馬太十六〇廿六、馬可八〇卅七、馬太十二〇一—五、八、九。善事の爲惡事をするといふ反對のよい例は、王となるべく膏沃がれた後のサウロに對するダビデの態度に表れて居ます。撒母耳前廿四〇—一七。

第二百九課 ヨセフ人の僕となる

目的——艱難のある所に於ても、導き給ふ神の御手ある事。自ら好んで入つたのでなければ、悪い境遇にありても、神は義しき道を歩ましめ給ふ能力ある事を、兒童に深く感せしむる爲。

一 準備——今日は皆さんと當てつてをしませう。一人の老人があつて、其人は晩方道を歩きながら、空の星を眺めて居ると、汝の子孫も星の如く多かる可しといふ聲を聞いたさうです。此の老人は誰でせうか。年老つて頭髮も少し白くなつて居る一人の

婦人が、赤兒を抱いて居りました。一寸見ると伯母さんのやうであります。赤兒は此人の子供でありました。此赤兒の名と母さんの名は何ですか。一人の美しい女が駱駝に乗つて來ました。此人はお嫁さんに來たのでありました。誰のお嫁さんでせう。名は何と云ひますか。前の日曜日にはリベカとイサクの二人の子供のお話をしました。二人の子の中何方が家の長となる人でしたらうか。兄弟に對して、どんな不親切な事をしましたか。如何して父さんを欺しましたか。皆さんは此の二人の兄弟の中でどつちが好ですか。何故ですか。(もしエサウが好きだと云ひましても、ヤコブの悪いことを彼此云はずに、只ヤコブは祝福を欲がつた爲悪かつたこと、エサウは自分の持物を大切にせず、ヤコブに賣り、ヤコブに賣らないとしても、誰かに賣つたかも知れません、之れは神様と其御約束を信じなかつたといふ、二人の悪い點を説明して下さい。)ヤコブは何故家から逃しましたか。

二 話——ヤコブが家を出る時、母さんは二三日の間と云ひましたが、二十年も過ぎてから漸く歸りました。父さんを欺いた罰があつて、遂に家を出さなければならんやうになり、度々人にも欺かれました。此人には十二人の子供が出來ました。此の永い年の間には、自分が悪かつたと思ふ時が度々ありました。けれども悪い事を止める事が出來なかつたのであります。遂に其の罰として自分の子供に欺かれました。(もし生徒が一年の時、ヨセフが埃及に賣られた話を教はりましたならば、其要點を問ふて下さい。)ヤコブに一人の可愛い子供がありまして、名をヨセフと申しました。或日父さんがヨセフを他の兄弟達の所へお使にやりました時、ヨセフを憎んで居つた兄弟達は初に殺さうとしましたが、都合よくヨセフを買ふ人がありましたから、其頃によくあつた奴隷に賣つてしまひました。ヨセフは泣いて兄弟に助を願ひましたが、其に構はず兄弟は行つてしまひましたから、見知らぬ言葉もわからない人の中にヨセフ一人が残されました。少しさかない事をする、此人々はヨセフを打ちました。(奴隷に賣られたものは男でも、女でも、子供でもまるで動物のやうに使役せられ、取扱はるゝ有様を話して下さい。)兄弟は聞かなくとも、神様はヨセフの泣聲と祈をお聴なさいました。或時ヨセフが市に連れられて行つた時、一人の親切な軍人が來ましてヨセ

ばならんやうになり、度々人にも欺かれました。此人には十二人の子供が出來ました。此の永い年の間には、自分が悪かつたと思ふ時が度々ありました。けれども悪い事を止める事が出來なかつたのであります。遂に其の罰として自分の子供に欺かれました。(もし生徒が一年の時、ヨセフが埃及に賣られた話を教はりましたならば、其要點を問ふて下さい。)ヤコブに一人の可愛い子供がありまして、名をヨセフと申しました。或日父さんがヨセフを他の兄弟達の所へお使にやりました時、ヨセフを憎んで居つた兄弟達は初に殺さうとしましたが、都合よくヨセフを買ふ人がありましたから、其頃によくあつた奴隷に賣つてしまひました。ヨセフは泣いて兄弟に助を願ひましたが、其に構はず兄弟は行つてしまひましたから、見知らぬ言葉もわからない人の中にヨセフ一人が残されました。少しさかない事をする、此人々はヨセフを打ちました。(奴隷に賣られたものは男でも、女でも、子供でもまるで動物のやうに使役せられ、取扱はるゝ有様を話して下さい。)兄弟は聞かなくとも、神様はヨセフの泣聲と祈をお聴なさいました。或時ヨセフが市に連れられて行つた時、一人の親切な軍人が來ましてヨセ

フを買ひました。ヨセフは寂しくて父さんの事を思出しては、家に歸りたいと思つて居ました。けれどもヨセフは厭な様子もせず、懶けないで、只神に御助を願ました。ヨセフは賢い子であつて一生懸命働いた爲、間もなく召使の者の長となりました。此も神様がヨセフと御一所に在つたからであります。ヨセフは永い間此家に居りましたが、人が悪口をした爲めに牢屋に入れられました。そして七年の間牢に入つて居ました。神様もヨセフを助けて下さらないやうでありましたが、神様はヨセフは悪い人の中に入つて居つても、本當に悪い事をして牢屋に入つたのではありませんでしたから、助けて下さいました。此の牢屋に居る間に、ヨセフは他の人と異つて、室には鍵をしなくても逃げませんでしたから、親切な軍人のやうに此の番人もヨセフを信用しました。

或日王様の城から二人の偉い軍人が此の牢屋に参りました時、ヨセフは大層親切にしまして、どうか自分は悪い事なぞ爲たものでありませんから、王様に願つて牢から出して下さるやう頼みました。此二人の軍人が歸つた後で、ヨセフは毎日赦しの使者が来るかと思つて外を眺めて居ましたけれども、来せんから歸つてから王様に申上げると、軍人が忘れたと思つて居ました。二年待つても助ける人が来ない。國の人々

は皆知らない人許りでありましたが、ヨセフは神様に助を願つて、牢屋でもよく働きました。何時か赦される、時を待つて居ました。

三 適用——こんなに永い間牢屋に居るのは、ヨセフにとつては本當に辛い事でありました。又私共が考へても、神様が私共を御忘れなされたのであらう、祈をするのも無駄な事であると思はれるほどでありましたが、こんな辛い事をして、後には偉い名譽ある事をする事が出来るやうにヨセフをする爲であつたのであります。次の日曜日にはヨセフが牢を出て、王様の城へ行くお話をさせう。

皆さんの兄さんや叔父さんで、軍人になつて居らるゝ方がありますか。軍人となるには、夜も眠らず番をしなければならん事もあり、家に居る時のやうに勝手に眠つたり自分の好きなものをたべたりする事は出来ませんが、こんな辛い事を幾年もしなければ偉い名譽ある軍人となれないのであります。軍人になる人は、もつと容易しくなればよいと思ふかも知れませんが、天子様はこういふ風にしなければ、偉い強い軍人になる事が出来ないと思召されるのであります。神様がヨセフに色々辛い事を爲せましたのも、其と同じ事であります。何故ヨセフが他の澤山な奴隷や罪人と一所に居りまして、奴隷や罪人のやうにならなかつたのでせう。子供は悪い友達と遊べば直ぐ悪くな

るものであります。ヨセフだけは悪い事をしないやうに神様にお助を願ひました。神の仰に従ひ御助を願ふ人を、神様はよく守つて下さるのであります。子供に羅馬書第八章廿八節「凡ての事は神の旨に依て召れたる神を愛するもの、爲めに悉く働きて益をなすを我儕は知れり」の句を暗誦させて下さい。

教師用聖句

兄弟に賣られたるヨセフはキリストの型なること 創七〇廿八。
弟子に賣られたるキリスト 太十六〇十四—十六。
ヨセフの叫 創四二〇廿一、詩十七、八參照。
ゲツセマネの園に於けるキリストの苦 路加廿二〇卅九—四七。
苦楚により成就せられたる我等の救主キリスト 希伯來二〇十。
埃及に於けるヨセフの十三年間の苦 創卅七〇二、四十一〇四六。
苦難の意味 羅馬八〇廿八、希伯來十二〇二、哥林多後四〇十六—十八。

大正二年五月十九日印刷
大正二年五月廿一日發行

神戸市下山手通り五丁目十五番 著者兼發行者 ヒユ一、ゼ、フチヌ
神戸市中山手通り三ノ五番 發行所 日本聖公會出版部
神戸市吾妻通三丁目十七番屋敷 印刷所 福音印刷合資會社神戸支店
神戸市吾妻通三丁目十七番屋敷 印刷所 福音印刷合資會社神戸支店

聖公會日曜學校教案

セシル 監督提案校閱
青葉 女學院 編纂

全教案の目的

成長後教會又は世に立つに際し、信者たる行爲をなし得るやう、兒童を教育養成する爲め。

第五年上半 (自十至十二歳)

第三百九課 惡逆の子アブサロム

聖句——撒母耳後書第十五乃至十八章特に第十七章十五節乃至廿二節。

目的——父を侮りし子。

本教課の爲め撰んだ聖句は長過ぎて、全部教へる事が出来ませんが、話の概略

だけは話さなければなりません。上記の章節は著しい事件を含んで居つて、注意を集中せしむる事が出来ます。

一 關係——第十五章二十四乃至廿九節の部分をもつて、契約の匱をエルサレムに移した前教課の話と、此の教課の話とを連絡する事が出来ます。(十五〇廿七と十七〇十七比較。)

二 話——アブサロムは王子殺害の重罪を犯した事を心に留めて下下さい。もし不明ならば、第十三章殊に全章最後の節をよく読んで下さい。其の結果アブサロムは二年間王の顔を見なかつたのでした(十四〇廿八)。終にダビデ王はアブサロムに面會を許しました(十四〇卅三)。父は子を赦しても、子は猶父と和がず、父の待遇に不満を懐いて居つたやうに想像されます。

アブサロムの父に背いた詳しい事は省いた方がよいが、話を始むるに當つて、一應其の理由を簡単に兒童に會得させなければなりません。

王は他の一人の王子を殺した罪を赦し、公然アブサロムと和解したが、アブサロム

は如何でせうか。彼は父の王位を奪はんとし、猶謀反の念を懐いて居りました。

話中にはダビデの愛心と、アブサロムの父を憎んだ事とを、對照する事を主とする事を忘れてはなりません

使者が来て、ダビデにエルサレムの近所を遁れなければならんと告げた事を、少し注意して話すれば、兒童は息を凝して、話に興味をもたせ、注意させる事が出来ます。追跡せられて、使者を隠した事を聞きませすと、エリコの間者の話を聯想します。

バホリム(十八節)といふ處は、ダビデの居つたギルガルの近く、ヨルダン河の渡場と、エルサレムの間にあつたやうに思はれます。十九節の擣きたる麥とは、擣いたのを擴げて干して居つた麥であります。

戦争が始まり、アブサロムが森の木に頭髪を懸垂て殺された事を以て話かは終ります(十八〇十四)が、十八章の最後の節を忘れてはなりません。

三 結論——王の長子アムノン(母 後三〇二)を殺して、アブサロムは嗣子の地位に立つ可き人となり、又順序から云へば父の後を嗣ぐ可き人でありましたが、非道の

手段を施した爲、却て自身をも滅ぼすやうになりました。神は王なる父を侮つた報果を、彼に與へられたのであります（十七〇十四）。

四 適用——特別に此教課の適用もありませんが、兒童の心に「父母を愛し敬ひ従順ふは神の聖旨に適ふの一步」なる事を、深く感せしめなければなりません。

五 金言——「爾の父母を敬へ」（馬可傳第七章十節）。

第三百十課 ソロモンと神殿

聖句——列王紀略上第六章一、廿七節及第八章一—十一、六二—六六節。

目的——神は正義を行ふ人と偕に在し給ふ。

一 關係——ソロモンはダビデの後王となり、最初に最も美なる神殿を建てた人であり、話を始めるに先ち、前教課の出來事の後ダビデはエルサレムに歸つた事、死に先ち愛子ソロモンを王位を襲ぐべき世嗣と定め、又神殿建築の意志をソロモンに告げられた事を簡単に兒童に説明する必要があると思ひます（代上廿二〇五、六）。

又前月中本學年の教課のダビデが契約の匱をエルサレムに移した事と、オルナンの

打場の教課（代上廿一〇）とを、出來得れば茲に引照しなければなりません。此オルナンの打場は、ソロモンが神殿を建築した場所となつたと傳えられて居るのであります。

二 話——本教課には神殿の美しかつた事以外に、興味を惹起するやうな事も多くありません。第五章乃至第八章全體を讀んで下さい。而し實際生徒に教ふる個處は、前出の聖句の個所だけであります。此話の概略を示せば次のやうであります。

一、ソロモン、ダビデの遺志を果たし、神の家を建てし事。

二、神殿の美觀。

三、献堂の儀式。

神の榮光が此の家を満たした點は、此話の頂點であります（八〇十一）。

三 適用——生徒の學ぶ可き事は「ソロモン初めて神の家を建つ」といふ見易い事だけであります。而し此れ以上教へていたゞきたいと思ふことを質問體にしますと、次のやうであります。

何故神の家を建てましたか。ソロモンが何故之を建てましたか。神様は家にお住な

さいますか (以賽亞六六〇一)

茲に本課程第一學年の「禮拜の日課」を繰返して、一層其教訓を強く教へたいと思ひます。

神様は何處にでもお現れなさるでせうか。現れ給ふ場所が定つて居るでせうか。立派

な建物がなければお現れなさいませんでせうか。そんなら何故ソロモンは斯様な立派

な神殿を建てましたらうか (答、神を敬ひ愛する爲、出来るだけよい物を神に捧ぐる

事)。一つ一番大切な事は何でせうか。そんな人々に神様はお現れなさるでせうか。神

様がお現れなされた人を皆さんが知つて居ますか。何處でしたらうか。

神様が私共の中においでなさるならば、どんな事をしなければなりませんか。木や

石で拵えたのでなく、外に神の殿がありますか。聖靈の現れるのは何處であるとキリ

ストが教へられましたか。

此教課を第六章十一、十二節及第九章一―九節と二部分に分け、總括して生徒の心

に感せしめなければなりません。此二部分は同一の真理の両面であります。

四 次つぎの教課の準備——ソロモンの後のち間もなく、代々だいたくの王わうは此この教をを忘わすれた爲ため、神様かみさまは之これ

を威喝おしかりなされた事ことを話はなして、續つづく教課けうくわの準備じゆんびをして下ください。次つぎの教課けうくわにはソロモンが

神かみの聖旨みせめいに従したがつた爲ため受うけました、ソロモン王わうの智慧ちゑについてお話しはなませう。其後そのちの教

課くわは、代々だいたくの王わうが神様かみさまを忘わすれたお話しはなしであります。

五 金言きんげん——「心こゝろの清きよき者は福ふくなり其人そのひとは神かみを見みることを得うべければ也なり」(馬太傳第五

章八節)

第三百十一課 ソロモン王の智慧

聖句——列王紀略上第三章十六乃至廿八節。

目的——神は求もとむる人々ひとびとに智慧ちゑを與あたへ給たまふ事。

一 關係——前教課には神の家を建てた事を學まなびましたが、覺おぼえて居をるでせう。神殿を建てた王様は何と申しましたか。神殿を初めて建てたといふ事は、名高い事であり
ますが、其れ以外ソロモン王は智慧があるので名高い王様でした。

智慧といふのは何でせうか。如何したらよいかといふ事を、一番よく知る事であり
ます。どうしたらよいかよくわかる事もあります。何時もそうではありません。わ
からない時はどうしますか。誰かに尋ねますか。事物についてよく勉強し、實地に行
つて見て、智慧を得られますが、私共より知識のある人に行つて、尋ねなければなら
ん事も屢々あります。ソロモンはどうして智慧を得ましたらうか。誰に教つたのでせ
うか。(答 神様に教へらる) 左様神様に願つて智慧を得たのであります。

二 話——先生は第三章及第十章全體を讀まなければなりません。生徒に話する事
は、前に掲げた聖句に含まれて居る事柄だけであります。今話して居る時代には、裁
判所も裁判する役人もありませんでした。王様が人民の裁判をする人であつて、人々
が何か心配のあつた時は、王様に判断を願ひました。それで王様は一番智慧があつて、
善悪をよく定められる人でなければなりません(三〇九を見よ)。

ソロモン王がこんな簡単な簡単な方法で、善悪を見分ける事が出来た智慧を、
兒童の心に感せしむるやう注意して話をして下さい。

ソロモン王の智慧ある事が一般に知れ亘りました。シバの女王のソロモンを訪問し
たのも、其智慧に付て聞かん爲でありました(太十二〇廿四比較)。

聖書中箴言、傳道書、詩篇は、ソロモン王の書いたものであると云ひ傳へられて居
ります。之を見ましても非常なる智慧があつた事がわかります。

三 適用——私共も皆ソロモン王のやうに賢くなれるとは云ひませんが、ソロモン王
と同じやうに、神様に願つて智慧を得る事が出来るのであります。

神様から智慧を受くるには、神様が私共に正しい事であると示された事は、小さい
事でも其の通りしなければなりません。此外に途がないのであります。持つて居る智
慧を用ゐれば、段々智慧が増すのであります。いつも正しい事がわかるやうにするに
は、正しいと思つた事は實際に之を行はなければならぬといふ事を忘れてはなりません。
自分では何れが正しいか疑つて決心が出来ない時は、祈を以て神の靈の導と助を
受けなければなりません。

四 次の教課の準備——ソロモン王はかく善い賢い王でありましたが、ソロモンの次の王

は神様の御示に従はなかつた爲、自分の國の一部分を失つてしまひました。次の教課には其のお話をしませう。

五 金言——「エホバは智慧をあたふ」(箴言第二章六節雅各書第一章五節比較)。

大正二年五月廿四日印刷
大正二年五月廿一日發行

著者 神戸市下山手通り五丁目十五番地
發行者 ビュー、ゼ、ブラス
發行所 日本聖公會出版社
印刷者 菅間徳次郎
印刷所 福音印刷合資會社神戸支店

終